

地域資源と人を巻き込み社会教育を考える ～公民館を活用した防災イベント実施を通じて～

【活動報告書】



令和 8 年 2 月 16 日

第 2 1 期 福知山市社会教育委員会議

目次

1.はじめに	p.2
2.これまでの会議の過程とイベント企画の趣旨	p.3
3.各委員からの社会教育委員会議活動振り返り	p.4
4.イベント広告記事 「社会教育委員会議からのお知らせ」	p.16
5.イベント終了記事 「地域公民館交流イベントを終えて」	p.19
6.アンケート結果振り返り	p.25
7.アンケート資料	p.26
8.イベント関連資料	p.32
9.あとがき	p.37



第 21 期社会教育委員会議のメンバー

(手前一行目左から、大谷杏委員、足立喜代美議長、上垣裕子副議長、佐々木康子委員、
奥二列目左から、森中公太委員、蒲善光委員、足立尚志委員、山田隆久委員、竹本悠二委員)

1.はじめに

第21期の社会教育委員会議で今回は提言ではなく報告書という形にたどりついた。どんな報告書にすればいいかを何度も協議をした結果である。

この報告書から次に繋げていける方向性が見えてきたのではないかと感じ、同時に人と人との繋がりを肌で体験できたと思う。

今回の報告書の作成にあたり、各社会教育委員、学生団体、桃映地域公民館館長など様々に関わっていただいた皆さんからの感想や思いを集めた。それぞれの個性溢れる感想となり統一性はないけれど、一貫していえるのは一緒に過ごした時間の共有が楽しいものだった。

それぞれの個性を楽しみながらページを開いてもらえるとありがたい。

議長 足立 喜代美



社会教育委員会議の様子

2.これまでの会議の過程とイベント企画の趣旨

福知山市社会教育委員会では、これまで本市の社会教育に関する諸計画を検討し、現代的課題等の研究調査を踏まえ、教育委員会に答申や提言を行ってきた。令和6年6月1日から任期を務める、第21期社会教育委員会議のメンバーでは、本市の今ある社会教育に関する取組や資源を見つめなおし、活かしながら社会教育の推進を図ることができるか、これまでの提言という形にとらわれず、イベントを通じて実証することにした。

まずは、第21期の委員のそれぞれのバックグラウンドや各々の強みを発表し合う機会を会の中で設けた。それぞれの分野において、「社会教育」と通ずる価値観がたくさん出てきたこともあり、この力を合わせながら取り組める方法・内容を模索した。

会議の中で、頻繁に出てきたキーワードが、「防災」であった。近年、全国各地で地震や大雨による被害が出ていること、また本市においてもこれまで「水害」によって多大な被害を受けてきたこともあり、地域としての問題意識（ニーズ）とも捉えることができると考えた。さらに、本市ではここ数年で、各中学校区単位の地域公民館をリニューアルし、地域の交流や防災、福祉に関する拠点として活用できるよう整備を進めておられる。各地域公民館は“避難所”としても指定されていることもあり、「防災」や「避難所」、「公民館」というところに着目し取組を進めることとした。

災害時の避難に関して、委員の話し合いの中で出てきたのが、「災害に備えて避難行動をとる方は少ない。」「知らない施設、場所に避難することはハードルが高い。」というような意見が出た。日常的に使用しているかどうか、馴染みのある場所かどうか、避難行動を考えるきっかけになると考え、地域公民館を活用したイベント開催へと結びついた。今回会場として使用した「桃映地域公民館」については、一昨年リニューアルしたばかりということもあり、地域へのPRにもなるようにと協力していただいた。

イベントに関する一番の目的は、「“公民館”という場所が、地域の誰にとっても身近な居場所、楽しい居場所というイメージを持ってもらうことで、通いやすくなること！」とした。イベント内容についても、「防災」を中心としながらもそれだけにとらわれず、楽しいレクリエーションの要素なども含めた内容とし、委員以外にも公立大学生など様々なボランティアグループの皆さんにも協力をいただくことになった。

本イベントを通じて、防災においても大切な“共助”を促進する「地域のつながり」を体感していただけるよう準備を進め、「集まって、つながって、楽しもう KOUMINKAN in 桃映地域公民館」と題し取り組んだ。

3.各委員からの社会教育委員会議活動振り返り

【社会教育委員会 議長 足立 喜代美】

福知山市内で子育て支援の NPO 団体おひさまと風の子サロン理事長で社会教育委員は 18 期から提言に関わっている。今回は提言書のテーマに迷い、今年度の新たな社会教育委員のメンバーとの初めての顔合わせにおいて、どのようにしたいか、どうすればいいのかを話し合ったところ、今年度は毎回の提言書ではなく、社会教育委員が地域に出向き、目標をもち何かを主催することで、そこから得られるなにかが繋がり、生涯学習へ繋がっていけばという方向性がみえてきた。新たにできた桃映地域公民館（令和 6 年 9 月竣工）を拠点とし、渡邊館長の協力のもと、福知山公立大学の学生団体「ふく子屋」「七福ふっこう隊」などにも協力をお願いして、幅広い視点でのイベント開催となった。21 期の社会教育委員はいろいろな世代の様々な職種の委員が集まり毎回の委員会議も和気あいあいとした和んだ雰囲気の中なかでも着々と準備が進んでいった。防災もテーマの一つとして防災食の試食や防災グッズ作りにも三和の民生児童委員のみなさんにお世話になった。それぞれの委員のネットワークからの繋がりが拡がり、チャット GPT を同じ社会教育委員である公立大学の学生からも操作や使い方を習い、使えるようになるという委員のなかでの成長もあった。

人を集めること、内容の伝え方など、どこが弱かったのかを反省し、次に繋げていく、このことの繰り返しから見えてくるものもある。
桃映地域で活動の読み聞かせ団体や中学生のボランティアの参加で主催者が参加者にもなり顔の見える関係が繋がりが拡がった。とにかく帰っていく参加者、見送る主催者すべてが満面の笑顔だった。

【社会教育委員会 副議長 上垣 裕子】

集まって、つながって、楽しもう KOUMINKAN in 桃映地域公民館
読みきかせコーナー実施報告

1. 日 時 11 月 16 日（日） 13:30 ～ 15:30
2. 場 所 桃映地域公民館 1 階フリースペース
3. ボランティア参加団体
大正小学校読み聞かせグループ 「ぼとふ」 参加人数 6 名
庵我小学校読み聞かせグループ 「ぶっくらこ」 参加人数 5 名
4. 準備物

読み聞かせ用の絵本：各ボランティア参加者が準備

会場準備物：床に敷くマット 10 枚と絵本の貸出しセット 3 セット（図書館中央館）

背景の黒幕、装飾（上垣）

5. 読み聞かせコーナー設置のねらい

- ・子どもの参加を促すきっかけとなる。
- ・桃映学区内の小学校で読み聞かせをしている2グループの交流の場となる。

6. 成果・効果

来場した子どもの数は多くはなかったが、参加したほとんどが座ってじっと読み聞かせをきいてくれた。

ボランティアの代表者とは、事前の打ち合わせを2回行った。学校での読み聞かせとは違い、年齢も人数も不明のままでの実施は難しいとの意見もあったが、それぞれのグループの個性あふれる読み聞かせを披露していただいた。イベント開始後しばらくは、子どものお客さんがいない状況だったが、絵本を交互に読みあって、読み聞かせ勉強会といった様子だった。

後日、「他のグループの実演を見ることができて参考になった」、「楽しかった」との感想をいただいた。「交流できてよかった」と、SNSで発信していただいたボランティアさんもあった。

7. 課題・反省点から次回に向けた改善案

子どもたちが参加しやすく、ボランティアにとっても読み聞かせしやすい環境にするべきだった。

改善案としては、読み聞かせの時間（1回30分程度）をあらかじめ設定し、チラシなどにも掲載して、その時間に集まってもらえるようにするとよいのではないかと思う。

8. 感想

私は、地域で子どもたちに本を貸し出す文庫活動をはじめ、小学校での読み聞かせや図書館でのボランティアなど、子どもと本をつなぐ活動を30年以上続けている。そこで、今回のイベントでは読み聞かせコーナーを担当させていただいた。実施にあたっては、会場の桃映地域公民館の地区内にある大正小学校と庵我小学校の読み聞かせボランティアグループにお願いした。私自身が読み聞かせの活動を行っているので、どちらのグループにも連絡のつく方があり、お願いをすると快く引き受けていただけた。永年にわたって活発に活動されているが、これまで二つのグループの交流は無く、また庵我地区のボランティアの中には公民館に来たことがない方もあったので、このイベントがお互いを知るよい機会になるのでは思った。

会場の準備はこちらで整え、イベントの進め方はできるだけボランティアグループにおまかせした。ギクシャクした場面もあったが、それは初めて出会う人同士なので当然おこりうること。話し合って進めることができ、かえってよかったと思っている。

今回のイベント実施にあたり、桃映地域公民館さんには場所の準備をはじめ全面的にご協力いただき、感謝申し上げます。使わせていただいたコーナーは入ってすぐのオープンスペースで、来館者の目につきやすく、読み聞かせにもちょうどよい広さだった。今後も地域の読み聞かせボランティアさんによるお話し会などが開催されることを願っている。

【社会教育委員 佐々木 康子】

私は民生児童委員として、6期目（1期3年）を迎え、日々地域の人々に寄り添い、安心・安全に生活出来るよう必要な関係機関につなげ、又多くのボランティア活動をしています。社会教育委員は、第18期からお世話になっています。

今までの社会教育委員会議では、それぞれの委員から、人材の育成・学校と市民協働に関すること・地域交流・家族だんらんの日の再啓発や提言の振り返り・防災活動等に対して、テーマを選定して議論を重ねてきました。今期は、委員も代わり、地域交流が深まる公民館として、新築となった桃映地域公民館で子どもから大人の地域のみなさまと交わりながら、防災・減災のブースや、公立大生が被災地に入り能登半島のボランティア活動の様子や、支援を体験する強みを活かしての展示は良かったと思う。又読み聞かせコーナーでは、庵我地区と大正地区のボランティアが協力される中、新しいスタイルの読み聞かせも見られた。桃映中生徒のボランティアの方々にゲームコーナーや各ブースに入っただき、良い経験にはなったのではないかと思います。民生委員のボランティアでは、紙食器の作り方体験や、湯さえあれば、数分間でごはんや、副食が出来て、試食で盛り上がり、味も美味しくなっているとの感想もいただけた。それぞれのブースも、体験も多く出来たので、幅広い学習の場になったと思います。

今回のイベントを振り返ってみますと、まず、日程が他の行事と重なっている中で参加者が少ないと感じました。早くから、ポスター、案内チラシ等、配布のお陰で、参加していただいた方には、感謝です。主催者側の私たちも、限られた時間で多くの意見を取り入れ、さまざまな立場の方々と、手をつなぎ目標到達点に向かって体験出来たことは、今後の生涯学習の観点からも、とても意義があったと思う。今後は、このテーマを大切に、更に動員の仕方にもうひと工夫考え、公民館の存在の大きな大切な場所として、関わられた私たちも、点が太い線につながったことを実感出来、終えることとなった。

【社会教育委員 蒲 善光】

現在、人権擁護委員と市民憲章協議会に所属し細やかではありますが福知山に貢献できればと活動しています。今回のイベントを開催して、3つの項目について検証します。

1. 集客について

- a. ポスター、チラシのみで自由参加とする。

今回実施した内容

ポスター 150枚、 チラシ 700枚、 ポスティング 500枚

- b. あらかじめ人数を設定して募集（声掛けなど）する。

参加してみようと思わせるような案内を作成する。例えばチラシやQRコードで「お土産引換券」等を発行して参加を促す。

今回のイベントで「読み聞かせ」があったので地区内の保育園やこども園に案内を出して、園で参加者を募ってもらい人数確認のため申込書などをいただく。

c. スタッフ参加型のイベントとする。

aと並行してスタッフの身内や友人知人に声を掛けてもらい参加を促す。この場合、ある程度人数が確保でき把握できる。

2. イベント内容について

防災をメインとすることによって、老若男女問わず全ての人が対象となって良かったと思います。また、場所についても公民館を活用したので、全国の地域においても活用しやすい場所だと思います。できれば、自治会長はじめ自治会等々の役員の方や近隣学校のPTA役員の方々にイベント開催の案内を出して、出欠確認がとれたらとても良かったと思います。そして、今回実施した内容のように社会教育委員の人脈や得意分野を最大限活用したことはとても良かったと思います。

3. 社会教育委員として何を提言すべきか？

過去の提言をみても、やはり人との繋がりをいかに提供できる施策を提言できるかではないかと思います。

社会教育委員自体、多種多様な人々がいて今回のイベントのように年齢性別関係なく人との繋がりができたことは、まさに我々委員が最も力を入れて取り組むべき内容だったと思います。そして、上記でも述べているように、各地域の公民館を最大限活用して人と人とが気軽に集い合える場所になるとと思います。また、公民館の会議室が営利目的を擁する団体が活用できれば更に親しみやすくなると思います。

【社会教育委員 大谷 杏】

2018年より福知山公立大学地域経営学部で教員をさせていただいております大谷です。前から予定されていた仕事のために残念ながら現地での出席が叶いませんでしたが、事前に数回にわたって行われた会議や当日朝の市役所での看板出しの準備には参加させていただきました。特に、今回は福知山公立大学から「七福ふっこう隊」と「ふく子屋」の2団体がこのイベントに関わらせていただくことになり、「七福ふっこう隊」の展示場所確認のために、真夏に桃映地域公民館さんへおじゃました際には館長様をはじめ、館の皆様方には大変お世話になりました。ポスター掲示を許可して下さった地域の方にも感謝申し上げます。当日の現地の様子は、委員の皆様や学生によるたくさんの写真付きの報告からうかがうことができました。地域の皆様に喜んでいただけたとのこと、関係者が一堂に会し、何度も会議で調整を重ねてきたからこそその成果であったと思います。これを機に、公民館を拠点とした世代をこえた交流が今まで以上に活発に行われ、安全・安心な地域づくりに繋がることを願っております。

【社会教育委員 山田 隆久】

私は、福知山市立学校の教員として勤務している。また、今までに社会教育士（社会教育主事）の資格を得る機会があったため、そこで学んだことを活かしたいという思いをもって社会教育委員の活動に参加してきた。今回実施した社会教育イベントは、「つながり」と「防災」をテーマとして企画したものであったが、参加者が少ないという課題があった。一方で、少人数であったからこそ、各ブースの担当者やボランティアが、通常は参加者に提供する体験を自ら受けることができ、主催者でありながら学びの当事者となる貴重な機会となった。防災体験や交流プログラムを自ら体験することで、企画の意図や学びの価値をより深く理解できたことは、今後の社会教育活動の質向上に大きく寄与すると考える。また、企画を立てること、多様な立場の人と協働すること、体験を共有してつながりを育むことこそが、社会教育がめざす姿であり、その意義をあらためて確認する機会となった。

参加者数は伸び悩んだものの、イベントの広報を通じて、公民館の存在意義や「地域のつながりを支える場」「防災力を高める学習の拠点」としての役割を地域へ発信できたことは大きな収穫であった。今回はコミセンをお借りしての実施であったが、参加者が少なかった要因の一つとして、地元開催ではなかったことが考えられる。地域住民にとって身近な場所で、顔見知り企画するイベントであることは参加意欲を高める要素であり、また地域行事が多い時期であったことも影響したと感じた。今後は、地元主催での規格を含め、地域の状況に寄り添った計画が必要である。

今回の企画・準備・運営を通して、社会教育委員やボランティアが協働し、「つながり」を体験的に実感するとともに、「防災」を自分ごととして捉える姿勢が育まれたことは大きな成果である。この経験を仲間と共有し、地域の学びの輪をさらに広げていくことこそが、社会教育委員として担うべき大切な役割であると感じた。

【社会教育委員 足立 尚志】

1 自己紹介

京都府立高校の教員として今年で40年を迎える。現在は京都府立高校2校で非常勤講師をしている。

2 社会教育委員として

「学校教育」については詳しいが、「社会教育」や「生涯学習」についてはあまり内容を知らないのが現状であった。この機会に、福知山市の「社会教育」や「生涯学習」の現状や課題について学びたいと思い、社会教育委員に就任した。特に多くの方々がイベントに参加意欲を持てる効果的な広報のあり方を研究課題とした。

3 今回のイベントについて

事前準備として、森中委員とともに広報・アンケート係を担当した。森中委員の尽力でAIを活用し、QRコードで読み取るなど3種類の効果的なチラシ・ポスターができた。印刷

業者には印刷だけをお願いしたので、安価な値段で作成できた。イベント後のアンケートも原則スマホでQRコードを読み取る形のアンケートを実施した。

当日のイベントではアンケートとお土産コーナーを担当した。アンケートを書かれた参加者全員がボランティアの中学生からお土産を手渡され、笑顔で帰られた。このほほえましい姿を見るだけでこのイベントは大成功である。ここに「地域のつながり」を見たし、参加者全員が間違いなく、改めて公民館の存在意義を認識されたと思う。このようなイベントに参加することによって、人と人の交流が心理的に幸福・安心感を高め、孤独感を防ぎ、健康にも良い影響を与えるのだと改めて感じた。また、社会教育委員自身が目標に向かってイベントを計画・準備・実行することの楽しさとイベントの広報の難しさも学んだ。地域のつながりが弱くなっている今こそ学校教育にはできない、いろいろな年齢層の人たちが触れ合えるイベントが重要だと思う。

課題として、

- 1：広報においては、イベントの目的と内容をもっと具体的に提示することが大切である。
- 2：集客増加策においては、地域のイベントなので会議に自治会長などにも出席していただき、趣旨を御理解いただくなど、地域の方々の協力を得ることが必要である。
- 3：当日のイベント運営においては、事前予約を原則（当日参加も可能）とし、参加予定者には決まった時間に集合していただき、いろいろな年齢層で構成する班で行動することが理想である。

【社会教育委員 竹本 悠二】

～社会教育の意義を考える～

私は、普段は「社会福祉協議会」というところで働き、“地域福祉の推進”を目的に日々努めています。“地域福祉の推進”、言い換えると、誰もが住み慣れた地域で豊かに暮らし続けることのできる福祉のまちづくり、を進めることだと考えています。そこに暮らす地域の皆さんと一緒に、どんなことが必要なのか、ということ話し合い、取り組み、一緒に汗をかくのが社協ワーカーの仕事です。

今回は、「公民館」という拠点を、地域の皆さんにとって居心地のよい場所、身近な場所を感じてもらえたらということを目的に、社会教育委員の皆さんとともにイベントを実施しました。特に、「災害」という観点から見ても、各地域の公民館は避難所としての機能をもつこととなります。しかし、行ったことのない場所に人は避難するのか…、そんな問題意識も持ちながら、今回の企画に至りました。

当日私は、民生児童委員の皆さんと一緒に、「防災食試食」＆「紙食器づくり」のコーナーを担当させていただきました。アルファ化米などの「防災食」を試食していただいたり、新聞紙や広告チラシで食器を作っていただくなど、初めての体験の方が多かったように思い

ます。親子での参加も多く、子どもたちに体験していただく機会になったことは、貴重な時間だったと感じています。

いざという時の災害時においては、「知っている」か「知らない」の差は非常に大きいと感じます。普段やっていないことや、知らないことが、災害時にできるということは、まず難しいと思うので、今回のイベントをきっかけに一人でも多くの方の「知っている」に繋がったと考えれば、良い取り組みだったと振り返ります。

そして、「災害」や「防災」というテーマは、子どもから大人、高齢者まで、どの世代においても共通した関心ごとであることも感じました。このテーマを中心に、地域の多くの方が関わり合ったり、学び合ったりという機会が、「公民館」を拠点に各地域で広がっていくことも大事な視点だと感じました。

今後、この「公民館」という拠点の災害時の避難所機能を最大限に活かすために、今回のイベントが少しでも何かのヒントに繋がっていくことを期待しています。

また、今回のイベントでは、社会教育委員のほかにも、福知山公立大学の学生団体や地域のボランティアの皆さんなど、多様な主体が企画側として関わっていただきました。一緒に考え、一緒に話し合い、一緒に汗をかいたこと…、この時間をともにできたことで、相互の“つながり”が生まれました。

様々な学びや出会い、交流、協働の時間を通じて、“つながり”が生まれることこそ、社会教育の醍醐味なのではないかと、イベントを振り返って感じた次第です。

【社会教育委員 森中 公太】

私は、福知山公立大学の学生であり、一般社団法人 NEXTE 福知山学生記者部に所属する者として、本委員会の取り組みにどのように貢献できるか、また将来の福知山市、ひいては社会教育における「福知山モデル」をどのように提言できるかを考え続けてきた。そしてZ世代の視点を意識し、積極的に試行錯誤を行なってきた。結果的に失敗から学ぶことが多くあったが、次に繋がられるヒントを得ることができたと思う。

私は広報担当の一員として、福知山市の広報における最適解、特にメディアによる発信の「露出化」を図ることに注力した。限られた文字数や媒体の制約の中で「どうすれば伝わるか」を考え、「あえて」を意識したチラシの工夫や、NEXTE 福知山学生記者部と連動したホームページ記事の制作、メディア出演など、さまざまな手段を通じて情報を届けてきた。これらの経験は、単なる広報作業にとどまらず、「人に届けるとはどういうことか」を深く考える機会となった。

また、今回の公民館イベント企画を通して、地域の方がどのようにつくられ、どのように広がっていくのかを実感をもって理解することができた。地域イベントは共通の思いや目的があるからこそ、一人ひとりの心が動き、行動につながり、結果としてネットワーク効果が生まれる。今回のテーマである「防災」は、地域の誰にとっても意味があるもので、その共通性が参加者の内側にある“自分ごと”につながり、人を動かしていた。この“共通の目的”が

あることで、民生委員、七福ふっこう隊、ふく子屋、中学生ボランティアなど、多様な立場の人が境界を越えて協力し合う姿が生まれた。主催者と参加者という線引きが曖昧で、誰もが同じ仲間として場をつくっていく。この公民館特有の空気は、肩書きや組織を越えた“共感の場”そのものだったと思った。一方で、大学生は地域との接点がまだ弱く、この共通の目的を“自分ごと”として捉えるまでの心理的な距離があったため、広報が届きにくかったと振り返っている。これは単にポスターや SNS の問題以上に、共通目的に巻き込む“関係づくり”ができていなかったことが要因だと考えている。だからこそ、今後は大学生も地域の一人として関われる仕組みをどう作るかが重要になる。また、中学生ボランティアの存在は象徴的だった。彼らが自然体で参加することで場が明るくなり、周囲の人の心も動かされていた。こうした“小さな行動”が連鎖して広がることこそが、地域イベントのネットワーク効果であり、継続するほど強くなる力だと感じた。

今回の経験を通して、地域イベントとは単なる催しではなく、「共通の目的が人の心を動かし、心が行動を生み、その行動がつながりを広げていく場」なのだと実感した。しかし条件として、立場や肩書きを越えて誰もが当事者になることができる日常の余白を、人の心や社会が持つことは少しばかり重要だという気付きも得ることができた。

これら学びは、何も地域イベントといった催し物だけにとどまるものでもない。4月から社会人として社会に貢献していく中で、まずは自身が適度に余白を持ち、頭のどこかに「社会教育」の思いを据えておこうと考えている。

【福知山市立桃映地域公民館 館長 渡邊 重則】

感想 その1

まずは、社会教育委員の皆さんが桃映地域公民館を使用しているイベント開催を企画していただいたことへの感謝です。市立公民館は、主に地域住民の生涯学習への機会や場の提供、地域住民の交流を主な仕事として取組を進めています。イベント開催となると、各公民館の運営協議会が企画・運営をして行事を展開していますが、それ以外に行事またはイベントを開催するための予算がなく、実質取組を進めようと思っても、開催することができないのが現状です。

しかしながら、今回、社会教育委員会議としてイベント開催していただくことで、他団体とのコラボにより目的に応じた開催が可能であると感じました。今後、関係機関や関係団体との連携の在り方を探ることで、社会教育の課題解決やよりよい生涯学習に向けてのイベントや行事開催への展望を持つことができました。

感想 その2

運営スタッフの核となるのは社会教育委員の皆さんでした。当日は委員さん以外に、民生児童委員、公立大学生、読み聞かせボランティア、中学生と多くの団体から運営スタッフとしてお世話になりました。皆さん初めて顔を合わせる方々がほとんどで、運営スタッフでありながら他ブースの活動については知っておられない状況であったため、参加者の立場で他

ブースに参加ができたことで、スタッフ同士の交流が生まれ、イベントそのものが賑わい活発になったと感じました。

このことは、スタッフ自身が楽しみながらイベントを開催することの大切さを改めて感じさせてもらったように思いました。コロナ禍以前より、行事やイベントを開催するにあたり、役員やスタッフの使役感が残り、このことが開催に対する負担感となってしまう場合があります。コロナ禍に行事の中止や精選がなされ、コロナ禍以後も集会活動が開催されなくなったり縮小されたりするケースが多くなったようにも思います。

社会教育の動きをつくるには、まずは人が集まることや交流することから始まると考えます。その時、参加者だけでなく運営者側の人達も楽しさを味わうことが、負担感や使役感をなくしイベントを成功させ、意義あるイベントとなるのではないのでしょうか。このようなイベントを重ねることで、次のリーダーを発見したりや育成につながったりすると感じます。今回は、集まることの大切や、目的を持ち開催に向けて協議をすることに意義を感じることでできるイベントだったと思っています。

メダカの学校・・・誰が生徒か先生か

今回のイベント・・・誰が参加者かスタッフか

【七福ふっこう隊 代表 松田 二香】（福知山公立大学）

七福ふっこう隊として、能登半島地震写真展と防災ワークショップのブースを設けた。写真展では、被災地や仮設住宅での活動の様子を学生によるギャラリートークを交えて紹介した。来場者からは、ボランティア活動は力仕事という印象が強かったが、交流の場をつくる活動もあることを知ったという声をいただき、活動への理解が広がったことを実感した。展示エリアには親子連れの方も多く、子どもたちが「ニュースで見た」と感想を伝えてくれたほか、被災地の思い出や福知山での水害経験を語ってくださる方もおり、災害が生活に及ぼす影響の大きさを改めて感じた。被災地では自治会など顔の見える関係性が避難所運営に大きく生かされており、今回の公民館イベントも、防災を通じて地域のつながりを深める機会になったと感じる。防災ワークショップでは、防災ボトル作りや新聞紙スリッパ、ポリ袋ポンチョ作りを実施し、多くの方に体験していただいた。防災ボトルは使い方を想像しながら備えることが重要であり、持ち帰った後も見直していく意識を伝えていきたい。今回の経験を生かし、今後も防災を身近に考える機会を提供していきたい。

【七福ふっこう隊 副代表 梶原 大資】（福知山公立大学）

今回福知山公立大学地域経営学部の大谷准教授よりお声がけいただき、福知山市社会教育委員会議の皆さまとご一緒に活動させていただきました。長期間にわたり準備から大変お世話になりました。ありがとうございます。

イベントにおいて、私たち七福ふっこう隊は能登半島地震災害ボランティア活動の写真展示と防災ボトルづくりをはじめとしたワークショップを実施しました。別の機会でも同様の活動はさせていただいておりますが、1人でも多くの方に私たちの活動を通して能登半島の状況の変化とボランティアの幅広さを知ってもらえると嬉しいので、このような場をいただけて良かったです。当日来場された方々ともお話ししながらボランティア活動で感じた各学生の気づきをお伝えするだけでなく、地域の方々から特に水害について実体験を伺うこともできたので双方でコミュニケーションをとれたのが良かった点であると思います。

一方で、他のブースを見てまわる時間をあまりとれなかったことが反省点です。それでも最後にいただいた防災食の中には知らなかったものも多く、お米を使用した食品でもお粥に加え、麺やクッキーとしても食べられることに気づけました。

また、この機会を通してイベントに来てくださった方々との交流もできましたが、主催者同士のつながりも深まったのではないかと思います。単純にイベントの実施を目指すのではなく、それぞれが今後どのように地域の皆さんと関わりたいのかを見据えてともに準備ができたと感じました。その中で私たちからご迷惑をおかけした部分もあったと思いますが何度も助けていただきました。おかげさまで安心して活動できたと思います。

最後になりますが改めて今回は貴重な機会をいただきありがとうございました。今後も私たちの活動目的を思い返しながら進んでいきたいと思っておりますので、また今回のつながりを活かしてご協力できることがあれば嬉しいです。

ぜひ今後ともよろしく願い申し上げます。

【学生団体「ふく子屋」 代表 大内 ひろ子】

1.当日の概要

11月16日、桃映地域公民館において開催された福知山市社会教育員会議主催イベントにおいてふく子屋は公民館2階の大会議室で遊びのブースを担当した。ブースでは、ふく子屋自作のビンゴゲームに加え、福知山市社会福祉協議会よりお借りした輪投げおよびウェルネスダーツの計3種類の遊び道具を使用し、ブース運営を行った。

本イベントでは、ブースを回ることスタンプを集め、すべて集めると最後に防災食のお土産をもらえることができるといった、来場者が最後まで楽しめる工夫がなされていた。その結果、遊びのブースには子どもから大人、高齢者まで幅広い年齢の方が訪れ、楽しんでいただくことができた。

また当日は、桃映中学校のボランティアの方にも手伝っていただき、中学生×大学生×地域の方といった新たな関係の構築にもつながる貴重な機会となった。

本イベントの開催日には、様々な要因から想定していた来場者数には至らなかったものの、会場に足を運んでいただいた方一人一人にとって、楽しみながら災害に対する自助・共助の意識を高める良い機会になったと考えられる。

2.準備段階

イベントに向けたミーティングは、ハピネスふくちやまの会議室にて行われ、ふく子屋は10月3日、10月24日、11月13日の計3回参加した。各ブースの企画や広報について協議が行われ、委員の方々の豊富な経験に基づくアイデアにより、企画の具体性と実現性が高まった。広報ではチラシ配布に加え、ラジオ放送も行われた。

3.感想

今回は運営側としてイベントに参加し、企画・準備から当日の運営まで多くの学びを得ることができた。今後もまちづくりの一員として、このような機会があれば積極的に参加していきたい。



京都 FM 丹波放送 ラジオ出演

【学生団体「ふく子屋」 副代表 中尾 直歩】

今回、公民館祭りに参加し、地域の皆さんや子どもたち、中学生ボランティアの方々と関わる中で、多くの学びと気づきを得ることができました。初めて会う子どもたちが笑顔を見せてくれたり、地域の皆さんが温かく声をかけてくださったりと、和やかな雰囲気が流れるイベントでした。

私が印象に残ったのは、中学生ボランティアの皆さんの活躍です。子どもたちや地域の方々に対して、積極的に声をかけたり、一緒に遊んだりとしっかりとコミュニケーションを取っている姿がとても頼もしく見えました。自分が中学生だった頃を思い返すと、あそこまで周囲に気を配ったり、人と関わることができていただろうかと考えさせられ、驚かされました。改めて「中学生もしっかりお兄さん・お姉さんなんだ」と感じました。

今回のイベントでは、防災に関する展示やグッズを通して、公民館が災害時にどのような役割を果たすのかを知ることができました。普段は地域の交流の場として親しまれている公民館が、災害時には避難場所や情報共有の拠点となることを知り、地域のつながりを日頃から大切にしておくことの重要性を感じました。「顔の見える関係」をつくるのが、非常時の安心にも繋がると実感しました。

さらに、久々に読み聞かせを聞く機会があり、大人になってから聞いても、とても面白かったです。読み聞かせボランティアの皆さんの子どもたちを引き込む話し方は、上手で参考になるものでした。遊びだけでなく、文化的な時間を共有することで、地域としての一体感を強めているように感じました。

今回、得られた経験やエネルギーを今後の活動にも生かしながら、地域の皆さんと一緒に地域を盛り上げられるように頑張ります。

4. イベント広告記事 「社会教育委員会議からののお知らせ」

注：NEXTE 福知山掲載記事を転記



第 21 期 京都府福知山市社会教育委員会議 よりイベントのお知らせです！

「第 1 回 地域公民館交流 イベント in 桃映地域公民館」

✨第 1 回 集まって、つながって、楽しもう！ ✨

～あなたの居場所になる公民館～

みなさんこんにちは😊

11月16日(日)の午後、京都府福知山市にある桃映地域公民館で、ちょっと特別な交流イベントをひらきます。テーマはずばり！

「公民館を“誰もが気軽に立ち寄れる居場所”に」。

私たちは、地域に寄り添った公民館をみなさんにもっと活用してもらいたいと考えています！本当に交流スペースとして最高なんです！みなさんに知ってもらいたくて…

また、災害が起きた際は公民館に避難してもらおうこととなりますが、一度も行ったことがないところは緊張しませんか？防災は準備が肝です。

そこで今回は、地域公民館を身近に感じてもらいつつ、防災をキーワードにしながら楽しく学べる企画をたっぷりご用意しました！

◆どんなことができるの？

📖 親子で楽しめる 読み聞かせ

🎓 大学生が語る 能登震災ボランティア体験談（七福ふっこう隊）

🍲 「えっ、これがおいしい！」本物の 防災食を試食

🏠 避難所のリアルを体験！ 仮設ベッドで寝てみよう

公立大学生との遊びの広場（ふく子屋）

DVD コーナー



💬 実行委員からのメッセージ

🌱 「ちょっと立ち寄ってみようかな」

そんな気軽な気持ちで大丈夫です！

このイベントは、防災を学ぶだけではなく、
地域の人と顔を合わせて笑い合える時間をつくりたいと思って企画しました。

📖 読み聞かせで子どもが笑顔になったり、

🎓 大学生の体験談に「へえ〜！」と耳を傾けたり、

🍲 防災食を味わって「意外とおいしい！」と驚いたり。

どの瞬間も、きっとあなたの毎日に小さな安心やぬくもりを届けてくれるはずです。

公民館は“もしもの時の避難所”ですが、

それだけでなく、ふだんから集まって、つながれる居場所でもあります。

11月16日、桃映地域公民館で、

あなたの「居場所」を一緒に見つけませんか？😊

11月16日、ぜひ一緒に過ごしましょう！✨

ここまで読んでくださりありがとうございます！あなたをお待ちしています😊

📅 日時：2025年11月16日（日）13:30～15:30

📍 場所：桃映地域公民館（駐車場あり）

桃映地域公民館 〒620-088 京都府福知山市字堀（東堀）2077 番地の 1
<https://share.google/ROcdRIIMfLnbpQkE>

主催：第 21 期 福知山市社会教育委員会議

大学生から社会人まで、所属がさまざまな私たちが主催しています！



地域交流促進イベントは継続が重要だと考えています。よって本イベントで好評であれば今後第 2 回も考えているそうです！

Style Note では、本イベントの変化記録としても追っていきます。

ぜひ第 1 回、覗いてみてください(^^)

連絡先：SKIfukuchiyama@amail.com

桃映地域公民館について：<https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/site/kyouiku/1975.html>

住所：〒620-088 京都府福知山市字堀（東堀）2077 番地の 1

電話番号：0773-24-3502

5. イベント終了記事 「地域公民館交流イベントを終えて」

注：NEXTE 福知山掲載記事を転記



笑顔いっぱいの日でした！

～第1回 地域公民館交流イベントを終えて～

2025年11月16日（日）、桃映地域公民館にて開催した「第1回 地域公民館交流イベント」が、皆さまのおかげで無事に終了いたしました。

当日は、親子連れの方々、地域の皆さま、学生ボランティアの方々など、たくさんの笑顔が公民館に集まりました。「公民館を誰もが気軽に立ち寄れる居場所に」というテーマのもと、防災をキーワードにしながらも、楽しく温かい時間を皆さんと共有できたことを、心より嬉しく思っています。

📖 読み聞かせコーナー

子どもたちの目がキラキラと輝いていた読み聞かせの時間。お話に夢中になる子どもたちと、優しく見守る保護者、さまざまなバックグラウンドを持った大人の方々の姿が印象的でした。公民館が「家族で楽しめる場所」だと感じていただけたのではないのでしょうか。



🎓 能登震災ボランティア体験談（七福ふっこう隊）

大学生たちによる実体験に基づいたお話は、多くの方が真剣に耳を傾けてくださいました。「へえ〜。」「そうだったんだ」という驚きの声や、「若い人たちが頑張っている姿に勇気もらった」という温かいお言葉もいただきました。能登半島地震災害ボランティア活動の写真展示は、訪れた方が被災地の状況に熱心に見入っていらっしゃいました。



防災食試食コーナー

「えっ、意外とおいしいやん！」という声があちこちから聞こえた試食コーナー。防災食のイメージが変わったという方も多く、「家でも備えてみようかな」と思えていただけたのではないのでしょうか。



避難所体験（仮設ベッド）

実際に仮設ベッドで横になってみることで、避難所のリアルを体感していただきました。

「思ったよりしっかりしている」「意外と安い」といった感想もあり、防災への意識を高めるきっかけになったようです。

防災ボトル作り（七福ふっこう隊）

七福ふっこう隊さんによる防災ボトル作り。子どもからお年寄りまで幅広い世代の方にご参加いただきました。ばんそうこうやマスクから、簡易トイレやアルミブランケットまで、多様なアイテムの中から自分に必要なものを考え、プラスチック製のウォーターボトルに詰めていく作業は、楽しく防災を「自分ごと」として考える良い機会となりました。



新聞紙スリッパ・皿作り

災害時に役立つ新聞紙工作のコーナー也大盛況でした。身近な材料で防災グッズが作れることを体験していただき、「こんなに簡単にできるんだ」という驚きの声をいただきました。



公立大学生との遊びの広場（ふく子屋）

学生スタッフと子どもたちが一緒に遊び、笑い声が絶えない空間となりました。世代を超えた交流が自然に生まれる、まさに「つながる居場所」を実感できた瞬間でした。小学生のお子さんはここで長く遊んでいましたね😊



ご来場いただいた皆さまへ

「ちょっと立ち寄ってみよう」という気軽な気持ちでお越しいただいた方、遠くから足を運んでくださった方、一人ひとりの存在がこのイベントを温かいものにしていただきました。皆さまの笑顔が、私たちの何よりの励みです。



ボランティアの皆さまへ

大学生の皆さん、地域のボランティアの皆さん、準備から当日の運営まで、本当にお疲れさまでした。皆さんの熱意と笑顔があったからこそ、参加者の方々にも楽しんでいただけました。チームワークの素晴らしさを実感した一日でした。



桃映地域公民館の関係者の皆さまへ

会場提供から様々なサポートまで、大変お世話になりました。地域に根差した公民館の温かさを、改めて感じることができました。



今回のイベントを通して、「公民館は”もしもの時”だけでなく、ふだんから集まって、つながれる居場所」であることを、多くの方と共有できたように思います。

参加者の方からは、「また来たい」「次回も楽しみにしています」という嬉しいお声もいただきました。このイベントが好評だったことを受けて、私たち第21期福知山市社会教育委員会では、第2回への開催も前向きに検討していきます。

地域交流は、一度きりでは終わらない、継続が大切だと私たちは考えています。これからも、公民館が皆さまの「居場所」となれるよう、活動を続けていきたいと思ひます。

11月16日、桃映地域公民館に集まったすべての方々へ。

あなたの笑顔が、地域を明るくします。

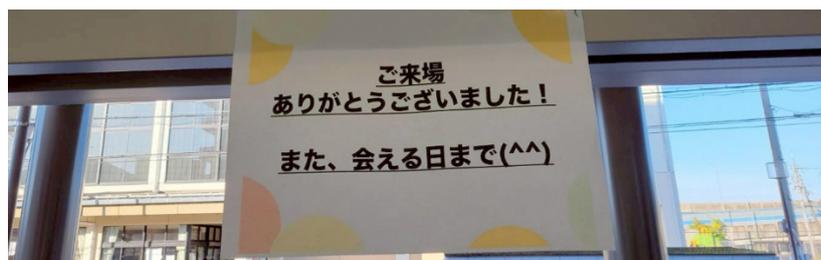
あなたのつながりが、地域を強くします。

あなたの「また来たい」が、私たちの力になります。

このイベントに関わってくださったすべての皆さまに、心から感謝を込めて。

本当に、本当にありがとうございました。

また、どこかでお会いできる日を楽しみにしています😊



第21期 福知山市社会教育委員会 一同

6.アンケート結果振り返り

今回のイベントは、多世代の地域住民が集まり、楽しみながら防災を学ぶ“地域共創型イベント”として評価を得た。防災食の試食や展示、遊びのひろば、学生ボランティアの活躍など、体験を通して学べる企画は特に満足度が高く、公民館らしい温かい声かけや世代間交流も、参加者から多くの肯定的な意見が寄せられた。これらは次回以降も確実に継承すべき強みである。

一方で、課題は広報面に集中した。大学生向けに作成したポスター②・③は、QRコードでHPへ誘導する意図から情報量を絞ったが、期待した若年層への効果は見られなかった。背景には、イベント当日の内容が確定しない段階で、チラシを早期に印刷業者へ依頼する必要があったという運営上の制約があり、結果として具体的な内容を十分に盛り込めなかった点がある。SNSでは随時内容を補足できる一方、紙媒体では情報更新が難しく、この点が来場判断に必要な情報不足につながったと考えられる。実際に子育て世代からも「内容が分からない」「子どもを連れて行けるか判断しづらい」といった声が寄せられ、広報物の伝わりづらさが参加のハードルになっていた。また、SNS発信においても、大学生や若い層が日常的に接触する導線が弱く、拡散性を高める仕組づくりの必要性が確認された。

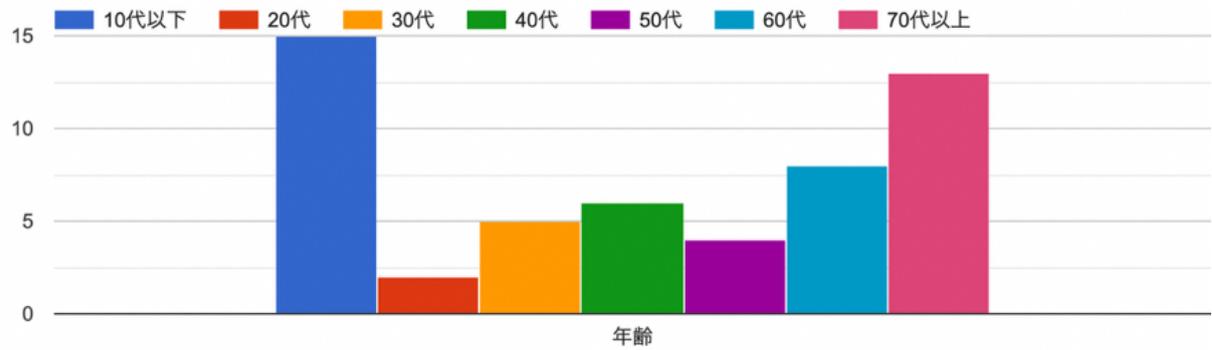
次回は、イベント内容を可能な限り早期に設計したうえで、ターゲット別に広報物を完全に分け、媒体・情報量・デザインを最適化することが重要である。特に内容を写真や図で“見える化”し、当日の様子が具体的に想像できる情報提供を行うことで、参加への心理的ハードルを下げられると考えられる。また、学生ボランティアを広報段階から巻き込み、SNS発信や口コミの仕組を制度化することで、若い層との接点を強化できる。

さらに今回、参加者として地域の知り合いや関係者が多かったことから、「弱いつながりの口コミ」や「共通の目的を持つ人同士の誘い合い」を初期の広報戦略に組み込むことの有効性も実感した。特に公民館のような地域に根ざした場では、共通の思いや関心を媒介に“知り合い同士で参加を広げていく構造”が自然に生まれやすい。この強みを意図的に育てることで、広報の届き方は大きく変わるだろう。

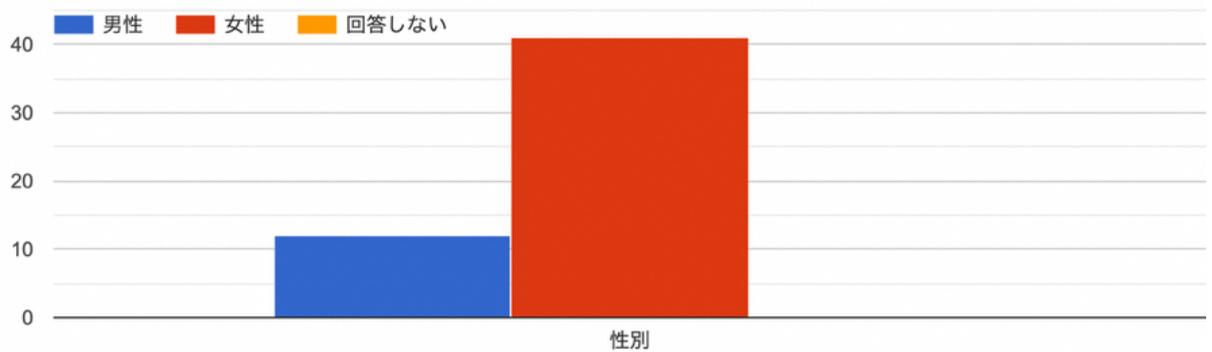
総じて、集客に関しては、事前準備段階からの広報設計を含めた「広報の最適化」と「つながりの活用戦略」を組み合わせることで、より多様な層が安心して参加できる場へと発展していくと考えられる。

以下、アンケート収集結果

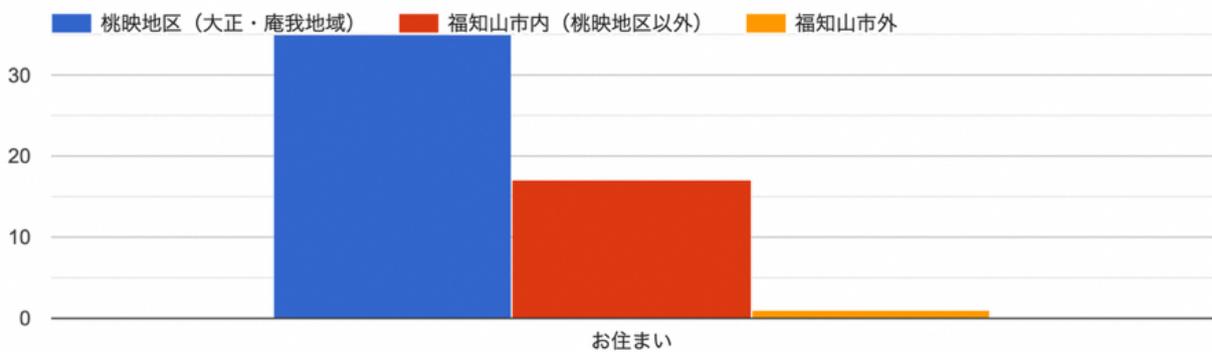
年代を教えてください。



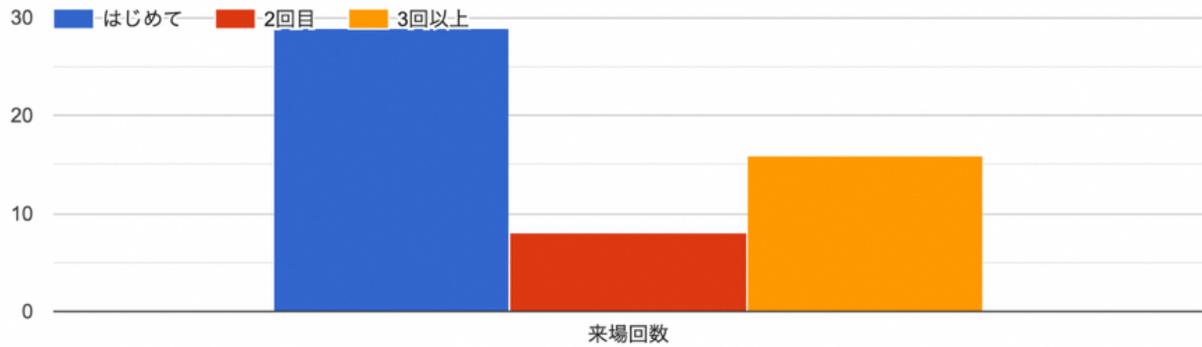
性別



お住まいはどちらですか。

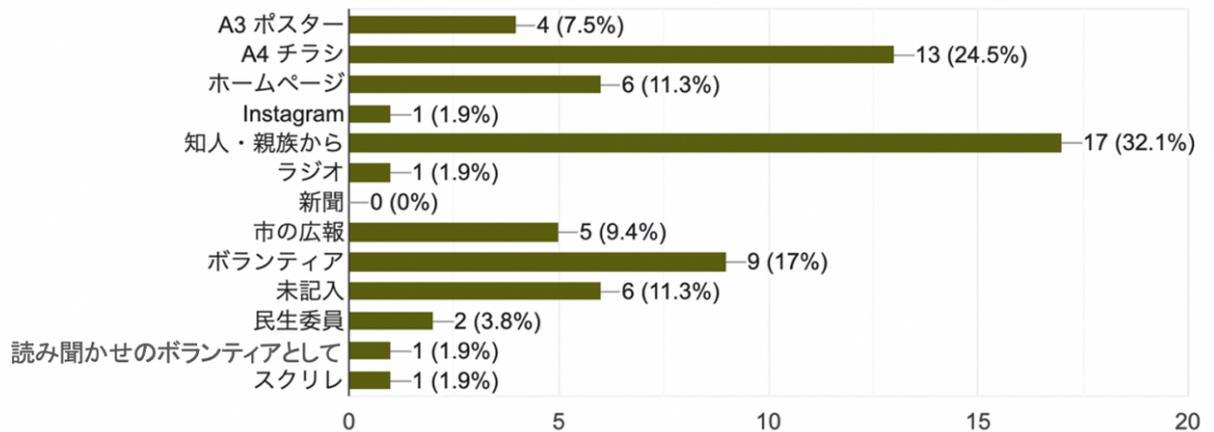


桃映地域公民館の来館回数は？



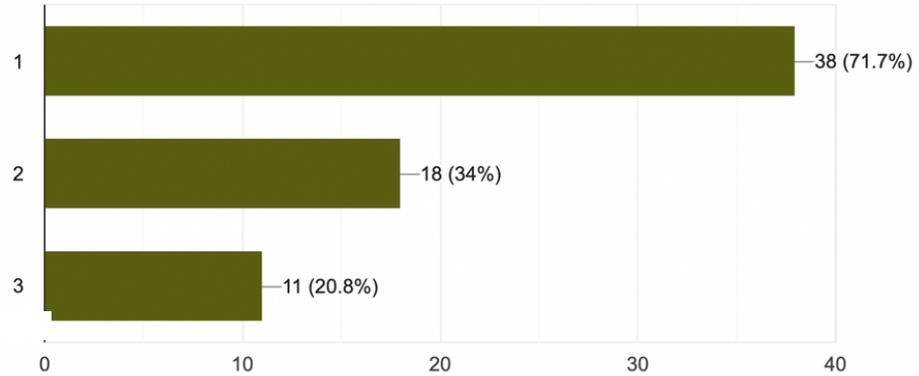
イベント参加のきっかけとなったものはどれですか？

53件の回答



以下のポスターで参加したくなるような効果的なポスターはどれですか？

53件の回答



1



2



3



一言ご感想をお願いします。(48件の回答)

1. とても楽しかったし面白い人もいて良かったです！
2. 防災への考えが広がりました。
3. 災害時における対応など色々と勉強になりました。ありがとうございました
4. 地域の皆さんが楽しくイベントを催されている様子にこちらも楽しい気分になりました。
5. 中学校の生徒がたくさん頑張っていました。
6. 実際に体験できて良かったです。スタッフの皆さんが元気に対応して下さいて気持ちよかったです。
7. 中学生から様々な年代の方が関わっておられる素敵なイベントでした
8. 家ではきっかけがなかなかないけど、防災について楽しく学べた。
9. ポスターで情報が少なすぎて内容が全く分からなかった。子ども連れで来て楽しめるかわからず、スクリレの説明で判断しました。
10. 家族でこれました！子供達も喜んでいたのでまたあれば参加したいです！
11. 防災のことや、能登半島の現状など、色々分かり良かったです。
12. 防災食の試食やDVDの上映など、防災について考えるきっかけになりました。ありがとうございました。
13. ボランティアと公立大学のみなさんが頑張っていて良かったです！
14. お疲れ様でした
15. ポスターが何があるのか、わかりにくい。
16. 最後の遊びの広場が良かったです
17. 色々ありがとうございました。公立大学の皆さん、将来を期待してます。山陰をよろしくお願いします。
18. 防災ボトルと読み聞かせが良かったです。
19. 楽しかった。
20. 色々な催しをこれからも期待しています
21. 楽しかった
22. 楽しかったです！
23. ためになりました！参加して、よかったです。
24. 全体を通してよい取り組みだと思う。「まうり」と共催するとか人寄せの方法を考えた方がよい。中学生、公立大のボランティアのみなさんありがとう！ご苦労さま。
25. フォーが美味しかった。ビンゴゲームが楽しかった。
26. 初めて参加してとても楽しくすごせました

27. 色んな世代の人が参加できていたのはよかった。楽しく防災を考える機会になったのではないのでしょうか。
28. 勉強になりました。ありがとうございました。楽しかったですよ
29. 防災グッズをつめる企画が子どもも参加しやすくとても良いと思いました。DVDでは中学生が木を植えたり、頑張っているのを初めて知りました。
30. とても良い催しだと思いますが人を集めることをもう少し考えたらいいと思いました
31. はじめての取り組みかと思いますが、宣伝の仕方が適切でないのではと感じました。
32. 新聞でスリッパとかを作れる事にびっくりしました
33. 色んな人と触れ合えて良かったし、いい経験になった。
34. 災害への関心を高めるような工作や防災食があって楽しかった
35. 楽しく防災について学びました。
36. 楽しかったです
37. 利用される方が少なく残念でした。絵本も子どもさんがおられなく残念でした。
38. 能登の事はニュースで聞いていたけど写真で見るとは感じが違っていたので身近にも起きるかと改めて思いました
39. 試食があたたくて楽しかったです
40. 今日一日ありがとう
41. とても楽しかったです！
42. 楽しかったです
43. 楽しかったです
44. 今日1日楽しく体験ができた。楽しかったです。
45. よい企画でした、
46. 防災食の試食をしたり防災食やダンボールベットやテントの良さを知れて楽しかったです
47. 楽しかったです
48. 楽しい遊びがたくさんあったり豪雨のDVDで自分たちが小さい時にこんなことがあったのだと知り豪雨などあっても大丈夫なように防災グッズなど揃えておきたいと思いました。

8. イベント関連資料

両丹日日新聞

避難所の地域公民館

行き慣れた居場所に

初の交流イベント開く

市社会教育委員会

2025年(令和7年)11月17日 月曜日 (日刊 日・祝日休刊)



防災ポトル作りに取り組み子どもたち

災害時の避難場所にも指定されている公民館に親しんでもらおうと、福知山市社会教育委員会(足立喜代美議長)は16日、東堀の桃映地域公民館で交流イベントを開いた。子どもから高齢者まで誰もが参加できるワークショップなどを用意し、来場者は楽しく防災を学んだ。

地域公民館は災害時の避難場所としての役割も担っているが、普段訪れることのない場所に避難するのは心理的なハードルが高い。そこで同委員会は、公民館を「誰もが気軽に立ち寄れる居場所」に

することを目的に、初めてイベントを企画した。当日は、福知山公立大学の学生や民生児童委員らの協力で、親子向けの読み聞かせ、防災グッズの展示、防災食の試食、新聞紙を使ったスリッパや皿作りなど、多彩な企画を実施した。

外出中に被災した際に備え、プラスチック製のウォーターボトルに防災グッズを詰めて携帯する「防災ポトル」作りのコーナーでは、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加。ばんそうこうやマスクなどの汎用性の高いものから、簡易トイレやアルミブランケットなど災害時に必要なものなど、多様なアイテムの中から自分に必要なものを考え、ポトルに詰めていった。

このほか、大学生による能登半島地震災害ボランティア活動の写真展示などもあり、訪れた人が被災地の状況に熱心に見入っていた。



丹波栗スイーツを求め多くの人が詰め

秋の味覚求め長蛇の列

モバパケで多彩な栗スイーツずらり

福知山市などで栽培されている丹波栗を使ったスイーツの販売イベント「MONPAK」で開かれた。市内の菓

同公民館を初めて訪れたという女性(19)は「地域の人同士で楽しそうにお話しされている姿を見て、温かい

雰囲気だと感じました。防災についても実際に考えるきっかけにもなり、良い企画だと思いました」と話していた。

両丹日日新聞

発行所
 (株)両丹日日新聞社
 〒620-0055
 福知山市篠尾新町一丁目99
 TEL 0773-22-2688
 FAX 0773-22-3232
 E-mail info@ryoutan.co.jp
 取材依頼は編集部 TEL 22-3324

WEBで簡単お取引

ほくと投信

インターネットサービス
 ネットで投資信託
 お取引ができる。
 になりました!!

詳しくは 本支店窓口
 もしくは、こちらから→
 地域元気堂の
 京都北部信用金庫

大きな事件、出来事
ネットですぐ速報

RT Web

https://www.ryoutan.co.jp

購読・配達
お問い合わせ

2025/11/17 両丹日日新聞

災害時、避難所の地域公民館 “行き慣れた居場所”にと、初の交流イベント開く／京都府福知山市

2025/11/17(月) 19:01 配信  

 **両丹日日新聞**
Ryoutan Nichinichi Shinbun



防災ボトル作りに取り組む子どもたち

災害時の避難場所にも指定されている公民館に親しんでもらおうと、京都府福知山市社会教育委員会（足立喜代美議長）は16日、東堀の桃映地域公民館で交流イベントを開いた。子どもから高齢者まで誰もが参加できるワークショップなどを用意し、来場者は楽しく防災を学んだ。

地域公民館は災害時の避難場所としての役割も担っているが、普段訪れることのない場所に避難するのは心理的なハードルが高い。そこで同委員会は、公民館を「誰もが気軽に立ち寄れる居場所」にすることを目的に、初めてイ

イベントを企画した。

当日は、福知山公立大学の学生や民生児童委員らの協力で、親子向けの読み聞かせ、防災グッズの展示、防災食の試食、新聞紙を使ったスリッパや皿作りなど、多彩な企画を実施した。

外出中に被災した際に備え、プラスチック製のウォーターボトルに防災グッズを詰めて携帯する「防災ボトル」作りのコーナーでは、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加。ばんそうこうやマスクなどの汎用性の高いものから、簡易トイレやアルミブランケットなど災害時に必要なものなど、多様なアイテムの中から自分に必要なものを考え、ボトルに詰めていった。

このほか、大学生による能登半島地震災害ボランティア活動の写真展示などもあり、訪れた人が被災地の状況に熱心に見入っていた。

同公民館を初めて訪れたという女性（19）は「地域の人同士で楽しそうにお話しされている姿を見て、温かい雰囲気だと感じました。防災についても実際に考えるきっかけにもなり、良い企画だと思いました」と話していた。

2025/11/17 Yahoo! JAPAN ニュース

災害時の地域のつながりをテーマにした催しが16日、福知山者は、避難所となる公民館や外国出身の住民支援の在り方につ

災害時こそ地域の

災害時に必要な品が詰まった「防災ポトル」作りを体験する来場者ら（福知山市堀・桃映地域公民館）



福知山

と外国人が直面する困難について

公民館 気軽に寄って

非常食試食や被災地報告も



被災地の状況について、来場者に説明する福知山公立大の学生

福知山市堀の桃映地域公民館では、公民館の役割を考えるイベント「KOMINKAN（こうみんかん）」が開かれた。「集まって、つながって、楽しもう！ あなたの居場所になる」をテーマに、福知山市社会教育委員会が主

催した。災害時に避難所となる公民館を気軽に立ち寄れる施設だと感じてもらうのが目的。

来場者は、非常食の梅がゆやフォー（米めん）を試食し、防災グッズを詰めた「防災ポトル」作りなどを体験。絵本の読み聞かせやレクリエーションもあり、幅広い世代が楽しんでいた。

福知山公立大の学生たちによる、能登半島地震の被災地でのボランティア活動も報告された。石川県七尾市や輪島市などの状況をパネルで紹介。2年の梶原大資さん（20）は「復興はまだ遠いと感じている。衣食住と共に、人とのつながりが大切だ」と話した。

（二松啓紀）

集まって・つながって・楽し
もう！～あなたの居場所こ
うみんかん～

時 11月16日(日)

13時30分～15時30分

所 桃映地域公民館

内 絵本の読み聞かせ、遊びひろ
ば、防災の展示・体験、防災食
の試食など

問 社会教育委員会(生涯学習

課内 **TEL** 24-7064 **FAX** 24-

880)へ

広報ふくちやま 令和7年10月号

チーム   2025 11月16日

in桃映地域公民館
みんなと、ちからを合わせて

 **チャレンジ** 
スタンプラリー

あつめたもじをならべかえて、ことばをつくってね!!

ヒント みんなのいばしょ 
こたえ



当日使用したスタンプラリー資料

9.あしがき

私の手元には第19期・第20期の社会教育委員会議提言書と、第21期の報告書があります。令和4年に出された第19期の提言書は、コロナ禍で社会教育委員会議の会議も多くがリモートで行われ、対面での社会的交流が制限される中で作成されたと聞いています。

「社会教育活動における情報の活かし方 ～情報の共有を通じて地域のつながりを深める～」と題され、困難な状況下でもスマートフォンなどの情報機器を活用し、人と人との絆をいかにつないでいくかが考察されました。

第20期の提言書は、コロナが5類感染症となり、社会活動が以前の姿を取り戻しつつあった令和6年に出されました。コロナ禍の影響を受けなかった社会活動はありません。その中で、いかに社会教育活動を再構築していくかが話し合われ、「地域課題に積極的に取り組む人材育成」を主題に討議が進められ、「人を育む社会教育のあり方 ～人材の見いだしとその育成～」としてまとめられました。

そして第21期、社会教育委員は自ら社会教育活動を実践するため、各々の得意分野を活かし、関係団体とも連携しながら協働でイベントを計画・実施しました。イベントの広報にはAIやSNSといったデジタルツールを活用し、情報発信を行いました。当日は中学生や大学生のスタッフも多く参加し、若い人材の存在が会場を大いに盛り上げてくれました。そうした点からも、今期の活動は第19期の「社会教育と情報」と第20期の「人材育成」という提言テーマを、イベントという形で具現化する試みであったと言えるかもしれません。

3期にわたる提言と実践を振り返りますと、社会教育は時代の変化に応じて形を変えながらも、「人がつながり、学び合う」という根本の理念を大切に受け継いできたことを改めて感じます。第21期の取り組みも、その流れを次へとつなぐ一つの歩みとなったのではないかと思います。今期の活動を通じて、社会教育は単なる学習機会の提供ではなく、人と人が出会い、支え合い、地域をより良くしていく力そのものであると実感しました。

最後に、ともに活動した委員の皆さま、そして支えてくださった関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

副議長 上垣 裕子



福知山市社会教育委員会議のこれまでの提言書

昭和59年6月1日	福知山市社会教育委員会議設置
昭和61年3月31日	「福知山市の将来を見通した社会教育のあり方に関し、その必要な施策・改革について」提言（第1期）
平成2年3月26日	「福知山市の生涯教育推進体制確立のための総合的かつ効果的な行政施策のあり方について」答申（第3期）
平成4年5月19日	「福知山市生涯教育における青少年健全育成のあり方について」答申（第4期）
平成6年5月19日	「生涯学習におけるボランティア活動のあり方について」提言（第5期）
平成8年3月	「生涯学習社会における社会教育の振興方策について」提言（第6期）
平成9年4月14日	『「生涯学習社会における社会教育の振興方策について」の具体的な方策について』意見書（第7期）
平成10年3月	「今、求められている生涯学習プログラムについて」提言（第7期）
平成11年10月26日	『生涯学習社会における福知山市の「心の教育」のあり方について』答申（第8期）
平成12年4月10日	『生涯学習社会における福知山市の「心の教育」のあり方について』答申に関する補足意見（第8期）
平成14年5月1日	「乳幼児期の子育てを充実させるための提言」（第9期）
平成16年5月25日	「生涯学習社会における高齢者の役割と生きがいのあり方について」提言（第10期）

平成17年8月10日	「安心して子育てができる地域社会づくり－高齢者の力を子育て支援に－」提言（第11期）
平成20年1月30日	「合併前の各市町がそれぞれに守りそだててきた、歴史と文化・地域の特色を活かした教育施設や豊かな人材を活用した生涯学習のあり方」答申（第12期）
平成22年5月28日	「社会の変化に対応した、地域社会の維持・発展方策について」答申（第13期）
平成24年3月14日	『「若者の声が響くまち」を目指して』提言（第14期）
平成26年3月25日	『「若者の声が響くまち」を目指して』具体的な取組提案提言（第15期）
平成28年3月25日	「家族だんらんの日」～市民総がかりで推進「地域だんらん」へ～ 提言（第16期）
平成30年3月28日	「社会教育活動の現状課題と必要性の検討～公民館役員へのアンケート調査などから～」調査・研究報告（第17期）
令和元年12月25日	社会教育活動の現状課題とあり方の検討～公民館を事例として～ 提言（第18期）
令和4年3月22日	社会教育活動における情報の活かし方 ～情報の共有を通じて地域のつながりを深める～ 提言（第19期）
令和6年3月28日	人を育む社会教育のあり方 ～人材の見いだしとその育成～ （第20期）

第21期 福知山市社会教育委員名簿
令和6年6月1日～令和8年5月31日

氏名	備考	氏名	備考
足立 喜代美	議長	山田 隆久	
上垣 裕子	副議長	足立 尚志	
佐々木 康子		竹本 悠二	
蒲 善光		森中 公太	
大谷 杏			